

令和5年10月 区長記者会見【テキスト版】

高際区長

おはようございます。では早速私からの報告をさせていただきます。

一つ目ですけれども、まず区の事業紹介ということで、区民からの事業提案制度についてご報告いたします。

こちらは前回も速報ということでお示しをいたしました。今年度から新体制において、区民の皆さま、地元企業の皆さまからのお声をたくさんいただきたいということで来年度予算にこういうことを盛り込んだ方がいいんじゃないかというご提案をいただく制度を始めました。個人・団体・企業の皆さん合わせまして「233件」のご提案をいただいております。前回も申し上げたかもしれませんが、非常に嬉しかったのはこの「233件」という数もそうですが、10代、20代、30代の若い世代から「31.8%」という、たくさんのお声をいただいたこと、これはもしかすると今まで豊島区がちょっと繋がりがきれていなかった層ではないかと思っていたので、非常に嬉しく思っております。

分野についても様々で、まちづくり、子育てや子ども若者への支援等々をいただいております。性別は「4対6」で女性の方が少し多いように聞いております。こちらの233件を「10件」に絞りまして、投票を始めました。

次ページをご覧ください。先週の金曜日から始めまして、11月10日まで区民の皆さまの投票を広く受け付けております。インターネットからもできますし、また区民ひろばですとか、区民事務所などに投票箱を設置しまして、紙でも投票いただける仕組みにしております。投票は区民の方に限らせていただいております、お1人1回3票まで投票できます。「何番と何番と何番がいい」ということをチェックいただく仕組みになっていますので、大好きなやつでも「一つに3票」というのはちょっとご遠慮いただいているんですけども、この10件のうちでどれがいいかということで、3票まで投票いただく仕組みにしています。

233件のうち10件に絞るとするのは非常に大変な作業でしたけれども、こちらの10件をセレクトさせていただいております。それぞれの所管の部署だけでなく、全ての部の部

長が、どれがいいかという点数をつけまして、そうした全庁的な観点から、こちらの10件について、今年は投票いただくことにしております。

昨年の東京都の例を見ますと、「684件」のご提案に対して「13件」を投票に回したということですので、うちの規模からすると「10件」というのは、数としては多いかなと思っております。

こちらの10件について投票いただいて、投票数の多いものなどから、来年度の予算にどういうふうに盛り込んでいくかという具体的な事業の詳細を私たちの方で考えさせていただきまして、来年度の予算案の中に盛り込み、第1回区議会定例会に提案をいたします。

今回、「233件」とたくさんご提案いただいて喜んでいるところですが、投票するのは10件だけですが、実は既存事業でやっているものの中で、「この意見を取り入れると格段に良くなるな」というようなものもたくさんいただいております。この10件以外のものについても、「このご提案については、この事業でこんな風に生かしていきたい」というような、私たちの検討結果についても、今後公表したいと思っております。

また分野ごとに、例えば「環境についてはこんなご提案がありました」「子育てについてはこんなご提案がありました」といったご提案の内容もフルに公表したいと思っております。最終的にこの10件の中のいくつが予算化できるは今後の検討にもよりますが、それよりも233件のお声をいただいて、それが区と区民の皆さま、企業の皆さまとをつなぐ本当に大きなパイプになったと思っております。

結果ももちろん大事ですけれども、いただいたものに対して私たちがどう考えているか、それを今後どうしていこうとしているのかということ、この結果までのプロセスというのも非常に大事だと思っておりますので、ここに至るまで私たちは233件についてどういうふうに考えたのか、何を生かしていくのかといったことについても、公表していきたい。それを元に、今すぐは無理かもしれないけど、こういう提案があるならもっとこういうことを考えていったらいいんじゃないかといった次なるステップに結びつけていけるといいなというふうに思っております。

次にとしま文化の日について説明をいたします。

これが今年のキービジュアルということで初めて作りました。できるだけ若い方にも参加をしていただきたいということで、明るくポップなキービジュアルを使いまして、また

動画を作りまして、いろんな区内のサイネージで流しておりますので、ご覧いただいた方も多いかと思います。ちなみにこれが私をモチーフにしてくれて「みゆっきー」という名前がついておりますけれども、このキャラクターがいろんなところに出没するきっかけを作っているところがございます。

9月29日には、としま文化の日の特設ホームページも開設しております。そちらでどんどん新しい情報を盛り込んでおりますので、ご覧をいただければと思っております。

としま文化の日の告知動画というのを初めて作りましたので、ご覧ください。

～動画～

もう1個あるんですね。今日は一本だけお見せしております。

そして、今年の文化の日で一番大きいイベントでしょうか？ハロウィンコスプレフェスをいよいよ今週末に行います。10回目になりますので、関係者一同、非常に力を入れて準備をしております。

主なタイムスケジュールですが、土曜日は12時半から、セレモニーを行います。先日小林幸子さんが区役所にいらして、大変な大賑わいになりましたけれども、アンバサダーをしていただいておりますので、小林幸子さんもお登場され、また今年も実行委員会の代表の皆さま、ドワンゴさん、アニメイトさん、サンシャインシティさんもコスプレをいたします、私もコスプレで登場することにしております。

それからその後ですね、パレード、そしてまちきれいプロジェクト等々が続きます。パレードなんですけれども、中池袋公園からサンシャイン60通りのニトリのあたりまで、約300メートル、小林幸子さんともどもパレードを行います。

去年はこの半分ぐらいの距離だったので、一気に倍歩くということで盛り上げていきたいと思っております。

それから右側にキッズチケットというのがございます。通常は500円のところ、豊島区在住の小学生と、未就学児のお子様は、今回は10周年のプレゼントとして無料で参加いただけるようにしております。

幸子さんも非常に張り切っていたので一緒に盛り上げていきたいと思えます。ぜひ多くの皆さまにお越しいただければと思います。

そしてもう一つの今回の目玉がですね、コスプレイヤーと一緒にごみを拾って歩こうというのをやります。別の自治体などでは「コスプレの時にごみがたくさん出たりということで大変だ」なんていうお話もありましたけれども、池袋のハロウィンコスプレはごみを増やすんじゃなくて、参加した人が、むしろごみを拾って歩きます、ということで私も含め、コスプレイヤーの皆さまと一緒にごみを拾って綺麗なまちづくりに貢献をしていきたいと思えます。

ちょうどですね、受動喫煙防止のキャッチコピーを募集いたしまして、これも多くの皆さまから「107件」ご応募いただきまして、その中からちょっと選びきれなかったものですから、3つキャッチコピーを選んでおります。こちらはコスプレイヤーさんが持ってもらうごみ袋に、キャッチコピーを入れますので、「まちをキレイにしていこうね」というPRをしながら、コスプレイヤーさんと一緒に「まちキレイ」の取り組みをしていきたいと思えます。

次が「アニメイトガールズフェスティバル2023」。これも非常に人気があるイベントでございます。11月3日・4日で行います。なので、もう毎週池袋ではコスプレがあるというような感じでございますけれども、アニメイトガールズフェスティバルはですね、皆さんご存知でしょうか、「池袋乙女マップ」というのがあります。これには池袋の地図が入っていて、女の子が好きな、楽しめそうなお店が入っているのですが、作成したのが5年前なので、池袋のまちも変わりましたし、お店も変わっていますので、今年全面リニューアルをしてお配りをするにしております。

それから、東京都の方でもアニメ東京ステーションが10月31日にオープンいたします。先日プレオープンのセレモニーがありまして、小池都知事もいらっしゃり、私もご一緒させていただきましたけれども、知事も非常に力が入っておられます。

「せっかく池袋にアニメ東京ステーションを作ったんだから、これは池袋のまち全体、さらには豊島区全体で、マンガ・アニメ等々の関連施設をぐるぐる回れるような、回遊性のある取り組みをぜひお願いね」ということを知事からも言われました。

アニメイトさんもあるし、サンシャインさんもあるし、またちょっと離れますけれども、マンガの聖地「トキワ荘マンガミュージアム」もありますし、1ヶ所だけじゃなくて、ぐるぐる回って池袋、豊島区全体を楽しんでもらえるような仕掛けを考えているところでございます。

それが次にあります、「としまデジタルラリー」です。

これはまさに本当に関係する企業さんがですね、全面応援でやります。スマホで行くところをピッとやってもらうのかな？それで全部で12ヶ所・施設を回ってもらうということなんですけれども、このスマホのアプリを使ったデジタルラリーで全部行くのは大変かもしれませんので、まず半分行くと、半分行ったところで特典があります。全部行くと、また全部行ったときの特典がありまして、例えばアニメイトさんからはこういうもの、サンシャインさんからはこういうものといったようなプレゼントがございます。

半分行ったところのプレゼントはですね、このさっき言った「みゆっきー」のノートを、これも地元の企業さんに協力いただいて作っていただきました。良い紙なんですけども、このノートの他に3種類から選んでいただけます。

ぜひぜひこの機に、今まで行ったところ、行きたいけど行ってないというようなところにも足を延ばしていただければなという風に思います。

次は少しちょっと話題が変わりまして、「ゆりかごオンライン面接を始めます」というお知らせになります。

豊島区では平成27年度から全ての妊婦の方を対象に、ゆりかご面接というのをやっております。妊娠届を出していただいた時に、よろしければその場で、あるいは別の日にご連絡をいただいて、ゆりかご面接を行っています。助産師・保健師から、妊娠中の不安なこととか、「こういうときはこんなふうに相談受けられます」等々、いろんなご相談と情報提供を行う大事な面接になっています。

例えば、里帰りでご実家の方で出産される、あるいは切迫早産などいろんな理由でなかなか保健所まで行けないと言った方もおられます。過去4年間、ちょっとコロナの影響も

あったかもしれませんが、ゆりかご面接を受けていただいたのが7割弱ということで、3割の方は何らかの事情で直接面接を受けていただけていないという状況でございます。

やはり一番心配な、心も体も不安定になる妊婦さんに対して、できるだけの支援をということで、10月2日からもう始めておりますけれども、オンラインでの面接も実施をすることといたしました。

事前にお申し込みもいただくんですけども、お医者さんなどから安静にしてなさいねと言われた方、また遠くで出産されるので、池袋の保健所に来られない方などを対象に面接をオンラインでいたします。

できるだけ1人でも多くの方が、今までちょっと行けないなと思っていたような方も、しっかりと区の方でサポートできるように頑張っていきたいと思っております。

次は、「豊島区と秩父市の姉妹都市提携40周年記念事業」です。

豊島区はですね、昭和55年に観光協会同士が仲良くなったことをきっかけに、昭和58年に秩父市と姉妹都市提携を締結しました。今年で40周年になります。昨年度より秩父市長からも、「今後のますますの連携のために、ぜひ一緒にいろいろなイベントやりましょう」というありがたいお話も頂戴いたしまして、今年、豊島区と秩父市と両方で行ったり来たりしながら、連携の取り組みを行います。

これまでもですね、両自治体が、スポーツ団体なんかはスポーツ交流をずっとやってきましたし、いろんな親善と取り組みをしていましたけれども、これからこれを機に一層秩父市との提携に取り組んでいきたいと思えます。

具体的な事業なんですけれども、まず11月3日は秩父に、私たちが参ります。「ちちぶ×としま マルシェ」ということで、秩父市の方で例年マルシェやられているんですけどそこに豊島区がコラボして、「ちちぶ×としま マルシェ」を行います。

そこではマルシェだけではなくて、秩父の伝統芸能である秩父屋台囃子というのが披露されたり、こちらからは伝統工芸士の方に秩父まで行っていただいて、そこでワークショップをやったり、また、東京よさこいチームが秩父市を盛り上げるというようなことを企画しております。

また、次の週は秩父市の皆さまが豊島区にお越しいただきまして、グローバルリングでイベントを行います。秩父市からは秩父高校、秩父農工科学高等学校吹奏楽部の皆さまが

ご披露いただきます。また私たちからもですね、区在住で非常に私も大好きなんですけれども、青島広志さんがご出演されまして、ご自身の演奏もそうですけれども、秩父市の高校生たちへのレクチャーを行うといったイベントを行います。

また、豊島区・和光市・箕輪町の社会福祉協議会で災害協定を結んでるんですけれども、40周年を記念してこの機にということで、秩父市の社会福祉協議会にも入っていただいて、4区市町での防災協定を結ぶ予定でございます。

この相互応援協定は12月に結びますので、またご報告を申し上げたいと思います。災害ボランティアセンターの運営補助ですとか、救援物資の提供ですとか、社協を通じた連携ってというのは、災害時には本当に肝になりますので、ここもしっかり連携をしていきたいと思えます。

福祉の関係でもう一つご説明いたします。「福祉救援センターの初動訓練」というのを初めて行います。

10月24日、明日になりますけれども、1階のとしまセンタースクエアで行います。災害時要援護者対策というのを、今豊島区では力を入れてるんですけれども、その取り組みの一つということで、豊島区とそれから特別養護老人ホーム、介護サービス事業所の合同で行う初めての訓練になります。

福祉救援センターってというのは避難生活に特別な配慮が必要とされる方に行っていただくところです。「いざ」という時には、皆さん、救援センターに避難いただくんですけど、そこだとちょっとしんどいなという方、イメージとしては要介護3以上で、一般の救援センターでは生活に著しく支障が出るというような方、寝たきりの方とご家族というイメージですけれども、そうした方には、救援センターから特別養護老人ホームに設けていただく福祉救援センターに移っていただくことになります。

今回はその訓練ですね。特別養護老人ホームでは日頃の入所者への支援というのも当然ありますので、そこが福祉救援センターになった時に、介護サービス事業者の方に応援で入っていただく、人的支援で入っていただく、そういう連携体制で臨む訓練でございます。

イメージは発災から2日程度経ったところ。要介護者受け入れまで、どういう段取りでやるのかというようなことをですね、一つ一つ3者で確認をしていきたいというふうに思っております。

また、現在福祉救援センターの開設運営マニュアルというのを作っております。今回の訓練を踏まえて、マニュアルに盛り込むべきこと、あるいはマニュアルのこれちょっと変えた方がいいなというようなことについては反映をして、現場に即したマニュアルを作っていくことにしております。

具体的な流れは次にございます。

住宅の喪失や倒壊などによって生活の場が失われた方、また失う恐れのある方がまず救援センターに避難をいただきます。その救援センターから「要介護者がいますよ」という報告が区の災害対策本部に入ります。その情報をもとに、区から特別養護老人ホームに福祉救援センターの設置を要請いたします。

できるかできないか、入所者の状況または特別養護老人ホーム側の被害の状況によって、「すぐできます」あるいは「まだできません」、あるいは「何人受けられます」ということもおのずと違ってくるとは思いますけれども、そうしたやり取りを行います。

できるとなった時に、介護サービス事業者に「ここの福祉救援センターに何人お願いします」といった派遣を依頼します。介護サービス事業所から必要な人数が福祉救援センターに到着し、体制が整ったところで、要介護者を救援センターから福祉救援センターに移送をすることになります。

これまで介護事業者の皆さまとは協定を結んだり、いろんな準備をしまいましたが、実際にやってみるのは初めてになりますので、どこに支障が出るのか、例えば「こういうときにはこういう連絡がないと厳しいよ」など、実際にやってみていろんな課題が見つかると思います。

福祉で、もう一つ「見守りと支え合いのネットワーク事業の協定締結式」を行います。

豊島区は一人暮らしの高齢者の割合が日本一高いという状況ですので、見守りを本当に大事にしています。高齢者総合相談センターといった専門のスタッフによる見守りもありますし、また熱中症防止ということで、民生委員の皆さまに各お宅を訪問していただくような地域での見守りもあります。

それに加えて、企業の皆さまなどの日常業務を通じて、ちょっとおかしいな、大丈夫かなという気付きを持ってもらえる、そうした3層構造の見守りというのでしょうか。見守りの強化をしていきたいと思っています。

これまでも、22の事業者と連携して参りました。配送業者もごございますし、新聞の販売店、郵便局、銀行もありました。22の皆さまと連携して、いろんな見守りをさせていただいておりますが、今回は新たに10事業者と連携しまして合計32の事業者と、見守り支え合いネットワークの締結をいたします。

協定式は11月10日、としまセンタースクエアで行いますので、またぜひ皆さまご取材いただければと思います。

具体的な10事業者はこちらになります。

ファミリーマートさん、公衆浴場、美容生活衛生同業組合、銀行、それからシニアライフクリエイティブさんというのは配食をやっていらっしゃるところでございます。

「お金のお支払いが大丈夫かな」とか、あるいは「身なりを構わなくなっちゃったな」とか、そうした気付きをいただいて、これは心配だという時には私ども区の方にご一報いただいで必要なサービスに繋げていきます。こうした連携をできるパートナーが10増えましたので、これからますます見守りをしっかりやっていければと思います。

ここからはイベントをご紹介します。

まずは文化の関係でございますが、11月1日「としま文化の日」には、私の出身でございますけれど東京都交響楽団が来てくれることになりました。Brillia HALLで13人の都響メンバーに弦楽アンサンブルをやっていただきます。非常に楽しみにしております。

それから、4日・5日はグローバルリングで「TOSHIMA Street Fes」というのをやります。これはアーバンスポーツから音楽、フードエリアもあるし、音楽もいろんなものを行うという一日中楽しんでいただけるイベントになります。

特にブレイクダンスやパルクールといったアーバンスポーツは、以前もご紹介をいたしました「チームとしま」から生まれたものです。

「チームとしま」では我々区側も、こういう課題がありますというのをプレゼンし、また企業の皆さまから、こんなことができますというのをプレゼンいただいて、そこでマッチングされたりという場ですけれども、まさにこのアーバンスポーツは当初の「チームとしま」の場でプレゼンをいただきまして、早速「としま文化の日」に合わせてやってみよう、ということで初めての取り組みになります。

アーバンスポーツなので多くの若者の皆さまに楽しんでいただけるんじゃないかと思えます。これからも「チームとしま」のご提案についてはどんどん取り組んでいきたいと思えます。

それから次は「としまミュージックサークル」についてです。

これも今までも開催してまして、私もとても好きですけれども、公園や路上ですとか、区の施設ですとか、野外でいろんな音楽を繰り広げております。非常に面白いので、ぜひお越しください。これも11月3日～5日と18日に行います。

そして、定番でございますけれども「Tokyo Music Evening Yube」。今回は読響がいらっしゃいます。また、コバケンとその仲間たちオーケストラということで、いつも非常にお世話になっているオーケストラが演奏に来てくださいますので、これもお楽しみいただければと思います。

最後に3つになりますけれども、先ほどもちょっと申し上げましたけれども「ごみゼロウィーク」です。やはりまちをキレイにしていくことが非常に重要なので、私たちは年に2回、区民の皆さまと一緒にごみを拾うイベントをやっています。

11月は、駒込・巣鴨・大塚・目白の駅を1日ごとに場所を変えまして、開催いたします。参加者には、いつもお揃いの手袋をプレゼントしているところでございます。

9月に行った「ごみゼロデー」には4日間で、52団体 740名の皆さまにご参加をいただきました。これも一大イベントになっておりますけれども、私も行って一緒に拾いたいなと思っています。本当にありがたい取り組みになっております。

次は児童虐待防止の関係でございます。

11月が秋のこどもまんなか月間ということになっておりますけれども、豊島区においても児童相談所設置区として、一生懸命取り組みたい課題でございます。

今年はですね、講演会を行います。11月18日に「ネット・ゲームが子どもたちの心と体にもたらす影響」というのをテーマに、依存症の専門病院でございます国立病院機構久里浜医療センターから宮原聡子先生。長年ゲーム依存の子どもやご家族の支援・相談にあたってこられた先生に来ていただきます。

ネット依存というのも非常に話題になっている深刻な問題かと思えます。お子さんがゲームに依存していることをきっかけに児童虐待になってしまったというようなケースもありますので、このテーマで実施をすることといたしました。明治安田こころの健康財団と共催で実施をいたします。

また月間ではいろんなところで該当のキャンペーンもいたします。こちら職員を挙げて児童虐待防止について訴えていきたいと思っています。

最後はですね、ちょっと毛色が変わりますけれども「わんわん防災フェスティバル」というのを行います。目白ペット倶楽部さんが主催で、本区は後援をしております。

今年は残念ながら「DOKIDOKI防災フェス」が雨で中止になってしまったんですけども、昨年行った時でもですね、ペットのコーナーを初めて作りましたら、非常に人気がございました。

コロナ禍でペットを飼う方も増えています。私も猫2匹いますけれども、本当に家族の一員で、何かあった時にこの子たちをどこに連れてくのか、連れていけないのかどうしようっていうのは非常に気になるところでございます。

この防災フェスでもですね、ペットケアサポーターの方が、災害時に必要なペット用品「こういうものはお家に置いておかなきゃ駄目ですよ」とか、またドックトレーナーの方からですね、「災害時に興奮して暴れたりしないように、日頃からこういう躰をしておくといいですよ」といった具体的なトレーニングも見せていただけるといことです。

区からも、昨年から装着が義務化されましたマイクロチップについてご紹介をするということ。災害とペットの問題というのは切り離せないと思っていますので、ぜひ大事な家族のペットがいらっしゃる方はお越しいただければと思います。

私からのご説明、ご報告は以上になります。

ありがとうございました。

【質疑応答】

毎日新聞

区民による事業提案制度についてお伺いしたいんですけども、10月20日から投票が始まって、今の時点でどれくらい投票が集まっているかがわかれば教えていただければと思います。

企画課長

本日10月23日の10時時点で、266件の回答が来ております。

高際区長

私も自分でX（旧：Twitter）やっているんですけど、もうしつこいほど流そうと思っております。

「知らなかったわ」ってならないように、区施設には全部ポスターを貼ろうと思っておりますし、デジタルでもアナログでも多くの方にご投票いただくことを強く願っております。

読売新聞

同じく区民投票について伺わせていただきます。「1人、1回、3票までです」とか、「豊島区民の方のみ」という話で、制限があるかと思うのですが、重複を避けるですとか、区民以外の方の投票を避けるですとか、こういった仕組みで行っていますでしょうか。

企画課長

制限を設けることにつきましては、東京都の事例を参考にさせていただいております。ホームページに投票できる方はどなたかとか、1人3票ということをあらかじめ記載しております。性善説といいますか、そういった形になってしまうのですが、それをご了解いただいた上での投票という形とさせていただいております。

高際区長

提案はですね、在住・在勤・在学ってということで広く募集させていただいたのですが、これを予算に入れて欲しいっていうのは、納税されている方っていうとあれですけど、自

分のお金で（税金で）行うのは、これにしてほしいというようなことがいかなど考えまして、投票（できる対象）については区民の方としております。

NHK

そごう・西武の件でお伺いできればと思います。以前、何度か情報共有の場も設けたいというお話があったかと思うのですが、その後面会されたのか、その詳細と、どういったことを伝えて、先方と共有したことなどの内容を教えていただければと思います。

高際区長

9月の末頃ですね。先日の記者会見した後にお会いしております。そごう・西武さんの新体制の方々からご挨拶を受けるということで、区役所にいらっしゃっております。8月にはまちの皆さまが説明を受ける場がありました。商店街連合会の方とか商工会議所の方とか8月に区と一緒に説明をお受けしたんですけども、その皆さまに加えて、地元の東口商店街の会長にもお入りいただきまして、お会いをしたところでございます。

そごう・西武さん新体制の皆さんからは、今までいろんなやり取りはありましたが、この体制でしっかりやっていきますというお話がありました。

今まで通り、区、それから地元とはしっかり協力体制をとっていきたいと、またかねてより私たちも申し上げていましたけど、池袋のまちづくりと一緒にやっていきたいというような言葉をいただいております。

これはまちの方たちも私たちも、気にしていたところですけども、改めて「セゾン文化、百貨店文化はしっかり引き継いでいきます」ということ、また「そごう・西武というものを必ず再生させていく、そういう意気込みでしっかりやっていきます」ということをおっしゃっていました。

私からはですね、「何年か経って、そごう・西武がなくなってしまうことはないですか」なんてこともちょっと聞いてしまいました。「それはありません」と、「撤退や閉店というのはいけませんと約束します」ということをおっしゃってくださいました。

「そごう・西武の中でも、池袋本店というのは何ととっても一番大事な店であるので、そこをいかに再生するか、全力でやります」ともおっしゃっていただきました。その時、ヨドバシホールディングスの安藤取締役も一緒にお越しいただいたのですが、安藤取締役からもですね、「自分たちの強みそれから、百貨店が持っているラグジュアリーな魅力の双方をコラボして、より盛り上げる新しい形の百貨店を作っていくって、それによって今ま

でよりももっともっと多くの方を池袋に呼び込んで行きたいんだ」ということをおっしゃっていただいております。それなので非常に、区側としても、まちの皆さまとしても、安心したなというような場だったと思います。

私からはですね、「館のスタイルが変わりますけれども、変わらず区にとって大事なパートナーであるので、これまで以上にまちの活性化や賑わいに、力をお貸しください」と伝えました。また、「今後はウォークアブルなまちづくりを目指しており、特にその中での東西デッキの整備というのは多いポイントになりまして、ヨドバシさんとも非常に連携しなければできないことです。そうした観点でもぜひ、まちづくり今後どうしていくかといったことについてはご参画をお願いしたい」ということをお伝えしたところであります。

NHK

今後の日程とか、面会の機会とかについても、お伺いしたいです。

高際区長

具体的な面会というのはないのですが、私たちからヨドバシホールディングスさんに、今後考えているウォークアブルなまちづくりとか、デッキのプランとか、そうしたことをご説明に伺う予定にしております。まちの方たちもですね、今後何か進んでいく時に、情報については共有してほしいというお声がございましたので、何か動くような時には、ご連絡頂戴して、また顔を合わせることをその都度あるのではないかと思います。

日本経済新聞

ハロウィンについてなのですが、今年インバウンドが復活してきて非常に混乱などが予想されるのかなと思いつつ、渋谷区などはまちに来ないで欲しいというような呼びかけもありましたけど、改めて今年のハロウィンに向けて、何かまちに来られる方に呼びかけたことですか、区として何か準備をされていることについて説明いただいてもよろしいでしょうか。

高際区長

これは実行委員会の皆さまを初め関係者と常々言っており、よそと比べるっていうことではないですが、豊島区に来られるコスプレイヤーの皆さまってというのは、本当に礼儀正しいというか、ルールを守られて、周りの方にご配慮いただきながら、楽しまれていると

いうのは、去年私も参加して本当に思いました。サンシャインシティで着替えてイケ・サンパークに来られる皆さんもですね、道路からはみ出て「ワーッ！」なんてやっている方はいませんし、ゴミを捨てるってこともありませんし、本当に「みんなでこのハロウィンコスプレのイベントを守っていかうね」という思いを感じます。それなのでちょっと今年は図々しくもう一步ということで、「ゴミも一緒に拾ってくださいよ」というようなイベントにも踏み出しました。

それから親子で楽しむ方も多く、去年も親子でコスプレされてステージに上がって楽しまれたりってこともあるので、ファミリー層もいらっしゃいますし、そこはまちを挙げて、みんなで楽しめるイベントになっていると思います。

今年はとにかく10周年ということなので、私たちもこれを機に、またインバウンドも復活して、区としてシティプロモーションをどんどん打っていきたいと思っています。一番大きい柱がやっぱりマンガ・アニメ・コスプレであり、これは豊島区としてはありがたい、大きな大きな財産として発信の強力な武器にしていきたいと思っております。そうした意味で今年10周年なので、私以外に職員もコスプレをしてですね、区として頑張ってくぞという表明をしたいなと思っております。

日本経済新聞

区長のコスプレの予定などは。

高際区長

今日試着をいたします。少し太っちゃったので入るかどうかわれですけれども、去年を超えるコスプレをして、とにかく豊島区を知ってもらう人を1人でも増やしたいなと思います。

東京新聞

そごう・西武さんの話に戻ってしまって申し訳ないのですが、9月末ごろにお会いしたという、区役所の方に新体制の方々がご挨拶にいらっしゃったということなのですが、出席者を改めて教えていただけますでしょうか。

高際区長

そごう・西武さんからはですね、新しく代表になられました劉さん、それから山下さん、フォートレスの方ですね。それから井上さんという取締役の方、それから田口社長、そしてヨドバシさんからは安藤取締役ということで、5人お越しいただいております。

東京新聞

その時は商店街の方とかまちの方はいらっしゃっていましたか。

高際区長

いらっしゃっております。8月にお会いした、私たちと一緒にご説明を受けたまちの皆さまに、東口の商店街の会長さんが加わって、ご一緒にお会いしたという状況です。

ありがとうございます。本日もいろいろな情報をお伝えいたしました。

11月のとしま文化の日に向けて、いろんなイベントやっていますのでぜひ皆さまにもご参加いただきたいと思います。

それと、一番最初に申し上げました事業提案制度。

初めての取り組みでしたので、所管は本当大変だったのですけれども、233件のご提案を一つ一つじっくり見させていただきまして、私も全て目を通して、これについては既存事業で改善策として活かせるよねとか、これはちょっと難しいかもしれないけど考えていかなきゃいけない課題だよねというのを、全件見ながら、所管課と、そしてその背景にいます全ての部署と一緒に、考えて進めてきたところでございます。

冒頭で申し上げた通り、投票については、今年はこの10件になります。

今年だけで終わることではなくて、これからも、来年も再来年もやりますので、またご提案をいただきたいと思います。

それから「私の提案が入っていないわ」と思われる方もたくさんいると思うのですけれども、申し上げたように（頂いた提案の）全てについてそれをどう生かせるかを考えていかなきゃいけないと、区としても大事に、大事に、受け止めております。それについても、整理をして、皆さまにお示しをしたい。

それをきっかけにまた次なる検討、もしかするとそのテーマでタウンミーティングをやるということもあるのかもしれませんが、次なる区民の皆さま、企業の皆さまと対話できる、意見交換できる場に繋がられるといいな、と思います。

多くのみなさまにご投票いただきたいので、ぜひメディアの皆さまにも宣伝をよろしくお願ひしたいと思います。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)